



わ
お
ま
ち

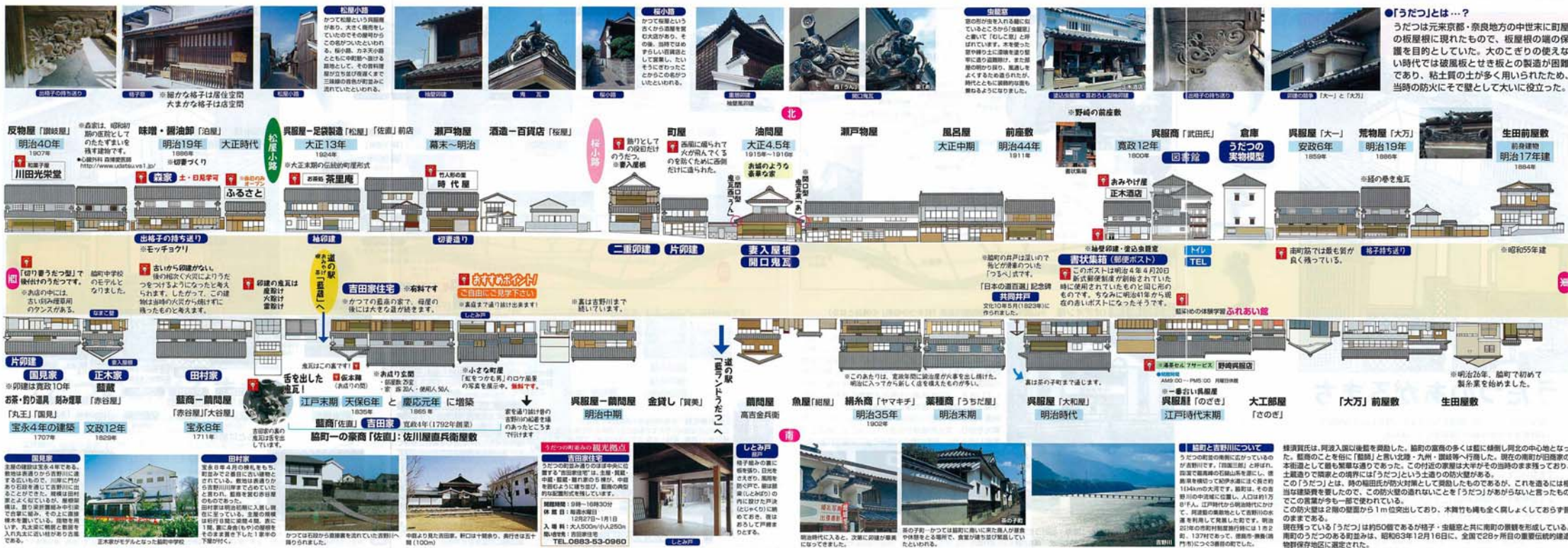
うだつのあがるまち

うだつ「卯建」は、二階の壁面から突き出した漆喰い塗りの袖壁で、火よけ壁とも呼ばれ防火の役目をしていました。

江戸時代、裕福な商家はこの「うだつ」をあげた立派な家を競って造りました。ことわざ辞典にいつまでもぐずぐずして一向に出世できないことを「うだつがあがらぬ」と記しており、この語源になったのではないかと思います。即ち、このような立派なうだつのある家を建てる甲斐性がないことから「うだつが上がらない」と言われるようになったと考えられます。もう一つの説は、うだつ（税）は二階の大屋根にいつも頭を押さえつけられているところから「うだつが上がらない」という言葉ができたとも言われています。



うだつの町並み
四国のまほろば 美馬市



林研資氏は、河内入道と関係している。河内の宮内省では、長に藤原朝臣とあることとされた。藤原のこのとを伯に「藤原」と書いたに違いない。今、藤原とあるのは、現在の河内の中津川の本地通といえる藤原に属するであって、この村の守護は藤原がその当時の主であるはずで、土着といふ藤原の宗族にほかならぬといふような主張は、大層な疑問である。

以上が、今のところの推定である。藤原朝臣の藤原とあることが、これを見るに相違ないであろう。一時の推定であるが、藤原朝臣の藤原といふことが、いふことがないといふものではない。この推定が、今後証明される。

この防火堤は2階の壁から15m突出しており、木建竹も壁も全く崩壊してさうすう折るものである。

焼けたという「うづたけ」は約60mあるが格子・塀壁と共に大規模な崩壊を形成している。

この防火堤の南側は町界で、昭和63年12月16日に、火災で28ヶ戸の重要な町界約集の町界が消失したとされている。



鳥害（鳥ぶすま）
鬼瓦に鳥がとまらないように、また糞をかけないようにするため、止まる場所としてつけられた。

鳥害には火事よけとして水に関係した「舟の帆」や「水の波」をつけているものがある。



奇棟造卯建

北



起り（く）屋根

カネ天小路
現在はガレージとなっているが、かつてはこの場所にカネ天の屋号をもつ天野家が醤油の製造卸を盛大に営んでいたことから名がついたといわれる。



妻入屋根

年代による建て方の特徴	
江戸時代の家	明治時代の家
・虫籠窓をもつ中二階	・格子造りで二階の軒が高い
・吊り上げ式のしとみ戸	
・寄棟型うだつ	

藍商「紅屋」
明治中期

飴屋—藍商—蘭問屋
弘化5年
1848年

味噌・醤油製造卸
「新井波屋」
明治5年
B72年

味噌・醤油卸米屋
「カネ天」
明治13年
1880年

蘭商
明治初期



起り屋根
壁土が多く入っているため

妻入屋根

西

東



船頭小屋
瀬戸物屋
明治後半

蘭問屋「丸十」

観光ガイドのお申し込みはこちらへ

美馬市観光文化資料館
TEL.0883-53-8599
美馬市観光協会

虫籠窓

※二階の屋根と、うだつの間にはすき間があり、うだつは防火の役目としてよりは、飾りを施したうだつとなっています。

通り抜けOK
※船板壁

※二階の大屋根との間にすき間がなく本来の防火を目的とした重厚なうだつです。

平田家

藍染め・みやげ物
藍屋敷おくむら協町店

明治時代の家
江戸時代の家



自働電話（美馬市観光文化資料館前公衆電話）
日本の公衆電話ボックスで2番目に古い形のを再現しています。標記が「（自働）電話」となっているのは決して間違いではなく、理由は定かではありませんが、当初から「自動」ではなく「自働」の文字が使用されていたと伝えられています。



南町の町家の立地

旧吉野川

美馬市観光文化資料館
この地に脇町税務署が明治32年に建築され、その後、昭和27年に税務署が移転し、昭和63年まで法務局、そして美馬市観光文化資料館として現在に至っています。構造は鉄筋コンクリート造りですが、外観は税務署時代の擬洋風のデザインで町並みに違和感なく溶け込んでいます。第十二世将棋名人小野五平に関する資料や、脇町の今昔を伝える貴重な資料を多数展示しています。また、この美馬市観光文化資料館内に観光協会・脇町うだつの町並ボランティアガイド連結会があり、美馬市の観光情報の発信や、観光案内の予約受付も行っていますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

呉服屋
明治前半

蘭商

傘屋「山木」 旅館「木五」
大正9年頃
1920年
明治
安政2年
1855年
もとは旅館

醤油屋 家具屋
1850年頃
「木匠屋」



パタリショウギ（床）

折り畳み式になっていて、夏の夕方、ここに座って将棋をさしたり、夕涼みを楽しみながら世間話をしていました。

平田家 第12世将棋名人小野五平の生家
天保2年10月6日木屋五平（宿屋）で生まれ成長した。泊り客のさす将棋を見たのが病みつきとなり、三度の飯よりも将棋が好きになった。持って生まれた素質とその熱心さのため、7、8歳の頃すでに五平を抜かす者はなかった。19歳の時江戸に出て将棋名人天野宗歩に弟子入りした。明治33年ついに第12世将棋名人となった。9段終身名人は将棋界の最高峰であり、脇町が生んだ偉大な人物である。大正11年6月、91歳の高齢で没した。



船板壁

吉野川を往来していた帆掛け船の船板を使った壁です。当時ここまで吉野川の水が来ていたそう、水に浸かっていた板を使用していたため、腐らず残っています。

脇町うだつの町並みと舞中島

舞中島は天正10年(1582年)の洪水により三谷と分断されて、川の中島となりました。吉野川の洪水との闘いの歴史がよく残る集落です。藍の集散地として栄えた脇町を支えた、藍の一大生産地で、この地に残る見事な高石垣住宅が藍生産の繁栄を物語っています。



アインシュタイン 友情の碑



光泉寺の高地蔵

至つるぎ町
東みよし町
三好市

三谷



大谷川



脇町潜水橋

県道鳴門池田線

至阿波市

脇町劇場

ショッピングセンター
パルシー

うだつの町並み

道の駅
藍ランド
うだつ

無料
駐車場

脇町潜水橋

竹林

護岸礫群

吉野川

竹林

舞中島

高石垣住宅

高石垣

公園

光泉寺の高地蔵

アインシュタイン 友情の碑

高石垣住宅

明連川

伊射奈美神社
(十二所神社)

至吉野川市
徳島市



高石垣住宅

脇町劇場 (オデオン座) ※山田洋次監督、西田敏行主演「虹をつかむ男」の舞台となる



脇町劇場

脇町劇場は1934(昭和9)年に芝居小屋として建てられ、歌舞伎や浪曲などが催され、戦後は映画館になり、地域の憩いの場として親しまれました。間口が14.4m、奥行27mの二階建てで、花道、うす座敷、太夫座等の設備が整っていました。舞台には直径約6mの回り舞台があり四国では愛媛県の内子座、香川県の琴平金丸座に現存しています。その後映画の斜陽化と建物の老朽化により平成7年に閉館し、取り壊される予定でした。が、松竹映画「虹をつかむ男」(山田洋次監督)の舞台になり、一躍脚光を浴び、文化的価値が見直され、指定文化財として平成11年5月に、昭和初期の創建時の姿に修復されました。



旧脇町劇場



劇場内部



●美馬市観光協会 監修：脇町うだつの町並みボランティアガイド連絡会

〒779-3610 徳島県美馬市脇町大字脇町92 美馬市観光文化資料館内/TEL.0883-53-8599 <http://www.mima-kankou.jp/>